

謎のヨロイマツ遺伝子の保存と増殖にかける夢

ヨロイマツとは?

ヨロイマツは、アカマツ、クロマツの混種で独特な特徴を持った、全国のみならず世界をさがしても大田市内のみで見られる極めて貴重な在来種のマツです。

かつてはたくさん自生していて、建築用材として使われていました。しかし、松くい虫による被害で、すでに自生していないとされていましたが、平成5年に偶然、3本の生存するヨロイマツが発見されました。

数年前に松くい虫被害で2本は枯損して残り1本となり、その後、令和2年に新たに残存木を1本確認し、現在確認できている残存木は2本となっています。

ヨロイマツの復活に向けて!

現在確認できている残存木2本の天然ヨロイマツを後生に残すため、所有者の理解を得て数年おきに松くい虫被害予防薬剤の注入や周辺の不要木除去を行っています。

また、平成11年から接ぎ木による遺伝子の保存にも取り組んでいます。台木はクロマツ(抵抗性)の2年生を使用し、穂木は接ぎ木で育てたヨロイマツから採っています。

接ぎ木は割り接ぎにより行い、形成層をうまく合わせるために接触面が動かないようにすることがポイント。毎年50本程度を接ぎ木し、うまく活着するのは10本程度です。令和7年1月に行った接ぎ木技術向上の研修会を受けて、これまで以上の活着率が見られ、今後のヨロイマツ増殖が期待されます。

「ヨロイマツ」の外観の特徴 (名前の由来)



鎧の草摺(くさずり)のように鱗片の下が反り返って、一周し何段も出来ている

「ヨロイマツ」の空目の特徴



空目が美しく貴重な高級木材として使われていた



ヨロイマツへの薬剤注入 「絶対に枯れないでくれ!」の思いを込めて



弱りかけているが定期的に



3年前発見したヨロイマツにも

接ぎ木技術向上の研修

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場から講師2名を招いた接ぎ木研修会



▶ ヨロイマツに関するお問い合わせは、大田市林友会まで (☎82-8500)